

「紀伊山地における大規模土砂災害対策の計画段階評価に関する有識者委員会」を開催しました

H28.11.02

- 平成23年に多数の大規模崩壊が発生した熊野川、日置川、那智川において、崩壊地等から土砂が溪流や支川に流出しています。今後の豪雨によって、土砂流出に伴う河床上昇が生じ、上流の集落や下流の市街地等で土砂・洪水氾濫のおそれや、土石流による重要な道路や集落等の直接被害や集落の孤立化等のおそれが高まっています。
- このため、当該地域における砂防計画の妥当性を審議することを目的に、「紀伊山地における大規模土砂災害対策の計画段階評価に関する有識者委員会」を設置し、委員会を開催しました。
- 議論の結果、土砂流出に対して砂防堰堤を中心に整備する事務局案が妥当とされました。

著しい土砂流出、河床変動の抑制の必要性



赤谷川、川原樋川合流地点（五條市）での土砂堆積状況

土砂災害での社会的な影響



土石流による交通途絶、孤立集落の発生

重要文化財（熊野那智大社）の被災

開催概要

日時：2016年11月2日（水）16:30～18:15
 場所：近畿地方整備局 別館3階 304共用会議室
 次第：

- 「紀伊山地における大規模土砂災害対策の計画段階評価に関する有識者委員会規約」確認
- 紀伊山地の大規模土砂災害対策における計画段階評価

委員メンバー

委員長は会議当日、委員互選により藤田教授を選出。

氏名	所属等	分野
江種 伸之	和歌山大学 システム工学科 教授	水工学・ 地盤工学
里深 好文	立命館大学 理工学部 都市システム工学科 教授	河川工学・ 砂防工学
多田 稔子	田辺市熊野ツーリズム ビューロー 会長	観光振興
藤田 正治	京都大学 防災研究所 教授	砂防工学
室崎 千重	奈良女子大学 研究員 生活環境科学系 講師	住生活学・ 福祉住環境

※五十音順、敬称略

主な審議事項と意見

【対策案の優位性について】

- （第1案）土砂生産源で山腹保全工を中心に整備する案
- （第2案）支川流域で砂防堰堤を中心に整備する案
- （第3案）保全対象を移転する案
 - 実現可能性等を含め総合的に評価を行うと、第2案は妥当。ただし、地域実情等も考慮し、各案を組み合わせた柔軟な対応を図るべき。
 - 流域で顕著な問題となっている土砂流出は解決すべき課題であり、移転では流域全体の問題は解決されない。

【その他】

- 流域の荒廃により非居住地域が広がる可能性もあり、国土保全上の観点からもこれら地域をいかに保全していくかが重要。
- 整備した砂防施設を防災教育等に活用できないか。

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局
 河川部 河川計画課
 〒540-8586 大阪市中央区大手前1丁目5-44
 TEL 06-6945-6355

